



## 社会建設経済

長野県木曾町・岐阜県中津川市  
(11月16日～17日)

# 視察研修報告



## 総務文教

茨城県つくば市・群馬県太田市  
(11月9日～10日)

木曾町：農村景観づくり  
中津川市：国保ヘルスアップ事業

つくば市：防災システム  
太田市：市役所はサービス産業

社会建設経済常任委員会では、11月16～17日の日程で木曾郡開田村（現木曾町）の農村景観づくりと木曾地方事務所の木曾川右岸道、中津川市坂下事業所が行っている国保ヘルスアップ事業を視察研修した。

旧開田村の概況は、人口2千人、戸数70戸、面積は149.54k㎡。主な産業は、農業、畜産、観光である。観光客の年間入込人数は35万人との事である。

沿道景観整備事業は、国道301号線の旧開田村入口付近から全長800mを白樺などを植栽し、すばらしい景観をつくっていた。周囲の自然との調和を大切に電柱や消防ホース格納箱なども茶色に塗られていた。

建物については、最高部分が13mを超えないこと、色は赤色・橙色は使わないことが決められていた。

ペンキ代助成事業は、茶系の色塗り替えに対し、坪あたり100円の助成を行っている。また銘木百選事業として村内の樹木56件を銘木に選定している。

総務文教委員会は、11月9日10日と1泊2日で茨城県つくば市と群馬県太田市を視察研修した。

初日は、つくば市の防災システムについての研修であった。つくば市は、平成14年合併をした20万人の学園都市である。合併後、それまであった市町の庁舎7ヶ所を、そのまま使用し、ネットワーク化されていた。

この情報システムの目標は「地域格差の是正をはかる」つまり、どの庁舎でもサービスが受けられるようシステム化したとのこと。

つくば市は外部より来ている学園の研究者、学生たちの単身赴任、独居学生が多く、システム化が喜ばれている。

防災システムとしては、防災監視カメラ6基の設置、携帯電話へ直接発信する防災メールシステム、各家庭へのホームページの発信、防災ニュースの表示等がネットワーク化されていた。しかし、警察、病院等

集落内景観整備事業は、平成元年から15の行政区へ毎年10万円の補助金を交付し、交付地域では、それぞれが考え、景観づくりを行っている。

ありのままの風景が最大のもてなしと考えていることで、御岳山を中心に素晴らしい景観づくりが実施されていた。

木曾川右岸道路については、浅間幹線道路改良の参考になればと木曾地方事務所林務課の案内で台ヶ峰線以南ルートを視察した。



2日目は、平成15年から国保ヘルスアップ事業のモデル事業を行っている中津川市坂下総合事務所視察研修を行った。

この事業の目的は、生活習慣病予備軍に対し、生活改善指導を行う事により、医療費の低減と健康増進を図ることである。

坂下地区を中心とした広域事業で、糖尿病や肥満の



太田市の行政改革には、市長の発案が多くあり、先頭に立って改革を進めていた。改革の内容としては、職員採用試験には、学力より人物重視を行うダイベイト方式を導入したり、循環型社会に適合した庁舎の経費の削減（電気・ガス・ゴミ・用紙等）、また、おおた市民債を発行し、行政への市民参加の意識の高揚を図ったり、図書館業務、大ホール

予備軍に対し、健康教室を3年間実施して、健康教室前と開始後の半年毎に検診を行い、比較する。

糖尿病と肥満予防のため食事指導や運動指導など個別に行いながら、医療費削減を計っていく事業ですすでに効果が出ている方もいるとの事であった。

こうした事業を取り入れしっかりとした健康づくりや病気の予防策を打ち出していく必要性を痛感した視察であった。

委員長 荻原 達久

との連携や、災害時の現場での防災体制の確立、等が今後の課題であると説明がなされた。

浅間山をひかえた御代田町も、防災については十分力を入れて行くべきと思えた。

次の日、群馬県太田市の行政改革の推進について視察研修をした。

太田市はマネージメントシステム基本方針として「市役所はサービス産業である」という認識で、企業の経営感覚や手法を取り入れ、市民ニーズに合った質の高い行政サービスを効果

的に提供する経営方針を定めている。市民は何を望んでいるのか、市民の満足向上のために何をしていくのか、効率的に経営しているか、その上で成果を検証していくシステムである。

つくば学園都市（パレットより）

